



# れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校  
令和3年10月号

学校教育目標  
キャッチフレーズ  
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子  
「はきはき・にこにこ・きびきび」  
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数371人

## 少しだけ安堵の思い

校長 清水 励

吹く風に肌寒さを感じる日もあり、季節のうつろい速さを感じております。そういえば、昨年もあまり秋を感じることなく寒い季節になってしまったという覚えがあります。今年もかな…と思うと、秋を感じることのできるものに会おうたびに、ちょっと幸せな気持ちになります。

過日行いました運動会は、「保護者参観なし」で行わせていただきました。これは、保護者の方々や子供たちの思いを考えると大変心苦しい判断でしたが、7月以降、これまでにない新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられ、医療機関等の逼迫した状況も危機的な事態となっており、学校としては、昨年度実施した運動会の対策では、どうしても「大丈夫である」と思うことができませんでした。運動会当日、保護者の方々の御参観がなかったのは寂しかったのですが、その分、児童の間隔を広々ととりながら、1年生から6年生までの全校児童が、綺麗な芝生の校庭に一堂に会して運動会を行うことができました。

また、そのような中、保護者の方から「子供や学校への応援メッセージ募集」や「お掃除隊と寄付品の募集」など、本当に有難い心温まる御提案をいただき、学校の負担まで御配慮いただき実現していただきました。これは、本校の保護者の方々の子供たちや学校に寄せていただいている思いが、形として現れた一つだと受け止めており、心より感謝申し上げます。教職員にとっても、学校に御支援・御協力くださっているたくさんの保護者の方々の思いを再確認し、改めて私たちに期待されている学校としての責務に対して気を引き締める機会ともなりました。



さて、この1年半、新型コロナウイルス感染症については、明るい知らせはほとんどなかったように思います。しかし、ここにきて第5波の急速な収束が見られ、新規感染者数の減少が続いております。各地で出されていた「緊急事態宣言」も9月30日に解除されました。もちろん、油断は禁物ですが、これまでの1年半という出口の見えない長く暗いトンネルを思うと、やはり状況が改善しつつあることに一筋の光を見たような安堵の思いがあります。

ただ、この後は、寒い季節となり空気も乾燥してきます。学校としての重要な予防対策として、これまで以上に「換気」に配慮してまいります。新型コロナウイルス感染症については「飛沫感染」「接触感染」だけでなく、「空気感染」の懸念について、多くの機関や研究者が指摘しています。素人ながらも、感染予防に常に注意を払って行動していた人も感染経路不明で感染してしまうケースが多いことから、やはり「空気感染」は経路としてあるのだろうなと感じています。「空気感染」を予防するためには、やはり「室内にとどまる空気を作らないこと」だそうです。室内の空気が入れ替わるように、対角線上に常に窓を開放したり、強制的に排気できる換気扇などを活用したりすることが有効とのこと。これからの季節は「寒さ」への対応も考える必要がありますが、まずは「換気」に留意しながら安全な学習環境の維持を図ってまいります。

また、2学期からの合言葉「手の長さ はなれて表す 思いやり」のもと、子供たちには人との距離についても注意しながら生活できるように指導してまいります。



10月は神無月(かんなづき)。神無月の由来の一つに「日本中のほとんどの神様が出雲に集まってしまい、各地の神様がいなくなるから」というものがあるそうです。神頼みではありませんが、日本だけでなく世界中の各地の人々の心からの切なる願いが通じて、嬉しい知らせが一つでも多く届く10月になることを願います。